

研究倫理シリーズ第2回

院生指導において いかに研究倫理を育てるか —メルボルン大学の事例—

2014. 11.04. Tue.

13:00-15:00

会場：東北大学青葉山キャンパス
工学研究科総合研究棟 110

定員：先着 50 名

講師：

Professor
Gabriele Lakomski

Centre for the Study of Higher Education,
The University of Melbourne

この数年間、日本では研究不正が相次ぎ、国際的にも権威を失墜しています。研究倫理を確立することは、日本の大学にとって喫緊の課題であり、文部科学大臣決定「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（8月26日）が制定されるなど、国レベルの取り組みも強化され始めました。大学では、責任ある研究活動の定義、倫理審査体制の構築など各種のルールの整備、データ管理や実験ノートの記録・保存など大学教育全体のシステム構築が求められますが、特に重要なのは、大学院における研究指導を通じて研究倫理を身に着ける指導教員（メンター）の役割です。オーストラリアでは研究倫理政策が進んでおり、昨年度は豪州ノートルダム大学の研究推進室長フェルマン博士をお招きし、講演会を行いました。今年は、メルボルン大学研究フェローのラコムスキー教授をお呼びし、メルボルン大学の研究倫理体制と研究指導の実際についてのセミナーを行います。研究指導を担当する教員は是非ご参加ください。

*講演は英語で行いますが、質疑は必要に応じて通訳を行います。

参加申込み方法 HPの「イベント申込み」から申込みいただけます。

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/> 東北大学高度教養教育・学生支援機構 検索

※Web申込み不可の場合は、氏名・所属・連絡先（e-mail）を明記の上、iehe-seminar@g-mail.tohoku-university.jp までお申込みください。

お問い合わせ 東北大学高度教養教育・学生支援機構
大学教育支援センター
TEL.022-795-4471

E-mail. iehe-seminar@g-mail.tohoku-university.jp

主催 東北大学高度教養教育・学生支援機構
大学教育支援センター

